

ノミ

〔出雲風土記下仁多郡〕三津鄉、郡家西南廿五里、大神大穴持命御子、阿遲須枳高日子命、御須髮八握于生、晝夜哭坐之辭不通。爾時、祖命、御子乘船而率巡八十島。宇良加志給鞆、猶不止哭之。大神夢願給告、御子之哭由夢爾願坐、則夜夢見坐之。御子之辭通、則寤問給。爾時御津申、爾時何處然云問給、卽御祖前立去出坐而石川度坂上至留申是處也。爾時其津水沼於而御身沐浴坐、故國造神吉事奏參向朝廷時、其水沼出而用初也。依此今產婦彼村稻不食、若有食者所生子不云也。

〔出雲風土記意宇郡〕忌部神戸、郡家正西廿一里二百六十步、國造神吉詞奏參向朝廷時、御沐之忌里、故云忌部、卽川邊出湯、出湯所在、兼海陸、仍男女老少、或道路駱驛、或海中汎洲、日集成市、續紛燕樂、一灌則形容端正、再浴則萬病悉除、自古至今、無不得驗、故俗人曰神湯也。

〔釋日本紀十義〕幸子津國有間溫湯

〔攝津國風土記〕曰、有馬郡又有鹽之原山、此近在鹽湯、此邊因以爲名、久牟知川、右因山爲名、山本名功地山、昔難波長樂豐前宮御宇天皇世爲車駕幸湯泉作行宮於湯泉之子時採材木於久牟知山和山、其材木美麗、於是勅云、此山有功之山、因號功地山、俗人彌誤曰久牟知山、又曰、始得見鹽湯等云々、土人云不知時世之號名、但知島大臣蘇我馬子時耳。

〔朝野群載二十一〕太政官符 大宰府

應聽往還某姓某丸向某國溫泉事

右得某人解傳、云々者、某宣奉勅依請者、府宜承知依宣施行、符到奉行、辨

年月日

〔古今著聞集釋教〕行基菩薩もろくの病人をたすけんがために、有馬の温泉にむかひ玉ふに、武庫山の中に、壹人の病者ふしたり、上人あはれみをたれて、とひ玉ふやう、汝なに、よりてか、此山の中にふしたる、病者答ていはく、病身をたすけんために、温泉へむかひ侍る、筋力絶盡て、前途達